

第143回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 有価証券の購入に関する問題である。購入金額を有価証券勘定に計上するとともに、現金で支払っているため、現金勘定を減額させる。
- 有価証券：180円×1,000株＝180,000円
2. 商品の購入に関する問題である。商品の取得原価は、購入代価に付随費用を加算した金額をもって商品の取得原価とする。また、代金は手付金として20%相当支払っているため、前払金勘定を減額し、残額は掛けであるため買掛金勘定で処理する。
- 仕入：200,000円＋3,000円＝203,000円
- 前払金：200,000円×20%＝40,000円
- 買掛金：200,000円－40,000円＝160,000円
3. 掛代金の回収に関する問題である。掛代金の回収に要する振込手数料は、支払手数料勘定で処理し、残額を当座預金口座へ入金されたため、当座預金勘定で処理する。
4. 備品の取得に関する問題である。備品の取得原価は、購入代価に付随費用を加算した金額をもって備品の取得原価とする。なお、代金の支払いはいは小切手を振り出して支払っているため当座預金勘定で処理し、残額は翌月以降の支払いであることから、未払金勘定で処理する。
5. 源泉徴収所得税の納付に関する問題である。源泉徴収所得税の預り時において、所得税預り金勘定で処理されているため、当該勘定を減額し、現金で支払っているため現金勘定で処理する。

第2問

(1) 補助簿の説明

1. 現金出納帳：現金残高の把握。仕訳にて現金勘定が生じた際に記入する。
2. 当座預金出納帳：当座預金残高の把握。仕訳にて当座預金勘定が生じた際に記入する。
3. 商品有高帳：商品帳簿有高及び売上原価の把握。仕訳にて仕入及び売上勘定が生じた際に記入する。ただし、売上値引きについては、売価の修正であり、商品原価には影響が無いため、記入しない。
4. 売掛金元帳：商店毎の売掛金の把握。仕訳にて売掛金勘定が生じた際に記入する。
5. 買掛金元帳：商店毎の買掛金の把握。仕訳にて買掛金勘定が生じた際に記入する。
6. 仕入帳：商品購入取引の詳細を把握。仕訳にて仕入勘定が生じた際に記入する。
7. 売上帳：商品販売取引の詳細を把握。仕訳にて売上勘定が生じた際に記入する。
8. 受取手形記入帳：受取手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて受取手形勘定が生じた際に記入する。
9. 支払手形記入帳：支払手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて支払手形勘定が生じた際に記入する。

(2) 各取引の仕訳と補助簿の選択は次のとおりである。

2日 (借) 仕 入	3、6 (貸) 当 座 預 金	2
	(〃) 支 払 手 形	9
6日 (借) 受 取 手 形	8 (貸) 売 上	3、7
(〃) 売 掛 金	4	
(借) 発 送 費	(貸) 現 金	1
16日 (借) 支 払 手 形	9 (貸) 当 座 預 金	2
27日 (借) 買 掛 金	4 (貸) 当 座 預 金	2
31日 (借) 手 形 売 却 損	(貸) 受 取 手 形	8
当 座 預 金	2	

第3問

(1) 勘定科目の推定

現 金		当 座 預 金	
前月までの合計	2,000,000	前月までの合計	5,000,000
当 座 預 金	200,000	仕 入	200,000
		受 取 手 形	※1 299,000
		売 掛 金	400,000
		現 金	※2 200,000
		通 信 費	42,000
		水 道 光 熱 費	40,000
		支 払 家 賃	60,000
		月 末 残 高	1,557,000

※1 受取手形勘定貸方「当座預金299,000円」より判明

※2 現金勘定借方「当座預金200,000円」より判明

受 取 手 形		売 掛 金	
前月までの合計	2,200,000	前月までの合計	3,100,000
売 上	500,000	売 上	※7 710,000
売 掛 金	※3 150,000	当 座 預 金	※6 400,000
	手 形 売 却 損	受 取 手 形	※3 150,000
	月 末 残 高	月 末 残 高	500,000

※3 答案用紙の得意先元帳千葉商店貸方「回収(約手受入)150,000円」より判明

※4 答案用紙の得意先元帳神奈川商店および千葉商店借方「売り上げ500,000円と210,000円」より判明

※5 当座預金勘定借方「売掛金400,000円」より判明

支 払 手 形		買 掛 金	
前月までの合計	1,000,000	前月までの合計	2,000,000
当 座 預 金	※2 200,000	当 座 預 金	300,000
月 末 残 高	350,000	支 払 手 形	※7 100,000
		仕 入	40,000
		月 末 残 高	350,000

※6 当座預金勘定貸方「支払手形200,000円」より判明

※7 支払手形勘定貸方「買掛金100,000円」より判明

(2) その他の勘定

前 受 金		預 り 金	
売 上	※1 120,000	前 月 残 高	30,000
月 末 残 高	100,000	給 料	※9 10,000

※8 付記事項イより判明

※9 付記事項ウより判明

売		上	
売 掛 金	※1060,000	前 月 残 高	5,000,000
月 末 残 高	6,570,000	当 座 預 金	※11300,000
		受 取 手 形	※12500,000
		売 掛 金	※13710,000
		前 受 金	※14120,000

※10 売掛金勘定貸方「売上 60,000 円」より判明
※11 当座預金勘定借方「売上 300,000 円」より判明
※12 受取手形勘定借方「売上 500,000 円」より判明
※13 売掛金勘定借方「売上 710,000」より判明
※14 付記事項イより判明

仕		入	
前 月 残 高	3,250,000	買 掛 金	※2040,000
現 金	※1540,000	月 末 残 高	4,270,000
当 座 預 金	※16200,000		
支 払 手 形	※17250,000		
買 掛 金	※18490,000		
前 払 金	※1980,000		

※15 現金勘定貸方「仕入 40,000 円」より判明
※16 当座預金勘定貸方「仕入 200,000 円」より判明
※17 支払手形勘定貸方「仕入 250,000 円」より判明
※18 買掛金勘定貸方「仕入 490,000 円」より判明
※19 付記事項アより判明
※20 買掛金勘定借方「仕入 40,000 円」より判明
※21 現金勘定貸方「給料 370,000 円」より判明
※22 付記事項ウより判明

発 送 費			
前 月 残 高	50,000	月 末 残 高	65,000
現 金	※2315,000		

※23 現金勘定貸方「発送費 15,000 円」より判明
※24 当座預金勘定貸方「支払家賃 60,000 円」より判明

通 信 費			
前 月 残 高	120,000	月 末 残 高	162,000
当 座 預 金	※2542,000		

※25 当座預金勘定貸方「通信費 42,000 円」より判明
※26 当座預金勘定貸方「水道光熱費 40,000 円」より判明

手 形 売 却 損			
前 月 残 高	10,000	月 末 残 高	11,000
受 取 手 形	※271,000		

※27 受取手形勘定貸方「手形売却損 1,000 円」より判明

給		料	
前 月 残 高	1,200,000	月 末 残 高	1,580,000
現 金	※21370,000		
預 り 金	※2210,000		

支 払 家 賃			
前 月 残 高	180,000	月 末 残 高	240,000
当 座 預 金	※2260,000		

水 道 光 熱 費			
前 月 残 高	150,000	月 末 残 高	190,000
当 座 預 金	※2640,000		

- (3) その他の金額
- ① 受取手形 4 月 1 日の金額は、受取手形勘定の前月までの合計の貸借差額で求める。
 - ② 売掛金 4 月 1 日の金額は、売掛金勘定の前月までの合計の貸借差額で求める。
 - ③ 資本金 4 月 1 日の金額は、残高試算表借方合計から貸方合計を控除し、貸借差額で求める。
 - ④ 得意先元帳の神奈川商店（当座振込）は、売掛金勘定貸方「当座預金 400,000 円」から千葉商店貸方「回収（当座振込）100,000 円」を控除して求める。
 - ⑤ 千葉商店値引きは、売掛金勘定貸方「売上 60,000 円」から神奈川商店貸方「返品 55,000 円」を控除して求める。

第 4 問

伝票とは、取引の記録（仕訳）を行う紙片であり、仕訳帳の代わりに用いられるものである。なお、各伝票の使用方法は下記のとおりである。

1. 入金伝票
- 入金取引を記入する伝票であり、仕訳上の借方が「現金」となる場合に用いる。入金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の貸方科目となる。したがって、当座預金は入金伝票には記載されない。
2. 出金伝票
- 出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。出金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の借方科目となる。したがって、当座預金は出金伝票には記載されない。
3. 振替伝票
- 入金伝票および出金伝票以外の取引を記入する伝票である。
- 以下各問いの解答を示す。

- (1) 振替伝票の金額欄に金額が記載されているため、いったん商品を掛けて仕入れ、掛代金の一部を現金で支払っているため取引を犠牲する処理であることが分かる。

① 振替伝票

(借) 仕	入	140,000	(貸) 買	掛	金	140,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

② 出金伝票

(借) 買	掛	金	40,000	(貸) 現	金	40,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

- (2) 入金伝票の科目欄に売上と記載されているため、取引を分解して処理する方法であることがわかる。

① 入金伝票

(借) 現	金	30,000	(貸) 売	上	30,000
-------	---	--------	-------	---	--------

② 振替伝票

(借) 売	掛	金	300,000	(貸) 売	上	300,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

第 5 問

〔決算日に判明した事項〕

- (1) 現金過不足
- | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|-------|-------|---|---|---|---|-------|
| (借) 通 | 信 | 費 | 2,000 | (貸) 現 | 金 | 過 | 不 | 足 | 3,000 |
| (〃) | 雑 | 損 | 1,000 | | | | | | |
- 現金過不足について、原因不明の金額は雑損又は雑益勘定で処理する。本問では雑損となる。
- (2) 訂正仕訳
- ① 誤った処理
- | | | | | | | |
|-------|---|--------|-------|---|---|--------|
| (借) 現 | 金 | 20,000 | (貸) 売 | 掛 | 金 | 20,000 |
|-------|---|--------|-------|---|---|--------|

② 本来の正しい処理

(借)	現	金	20,000	(貸)	前	受	金	20,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

③ 訂正仕訳

(借)	売	掛	金	20,000	(貸)	前	受	金	20,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

売掛金を減少させている処理が誤りであるため、売掛金を増額し、本来計上すべきである前受金を増額させる。

(3) 仮払金の判明

(借)	備	品	250,000	(貸)	仮	払	金	250,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

[決算整理事項等]

(1) 売上原価の算定

(借)	売	上	原	価	691,000	(貸)	繰	越	商	品	41,000
						(〃)	仕				650,000
(借)	繰	越	商	品	38,000	(貸)	売	上	原	価	38,000

売上原価は、期首商品棚卸高に当期商品仕入高を加算し、期末商品棚卸高を控除することによって求められる。そのため、売上原価勘定に期首繰越商品と当期商品仕入高を加算し、期末繰越商品を控除することによって売上原価が求められる。

(2) 貸倒引当金の設定

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	6,400	(貸)	貸	倒	引	当	金	6,400
-----	---	---	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	---	-------

貸倒引当金繰入：{76,000 円（整理前 T/B 受取手形）+134,000 円（修正後売掛金）×4%}－2,000 円（整理前 T/B 貸倒引当金）＝6,400 円

(3) 減価償却

(借)	減	価	償	却	費	106,500	(貸)	建	物	減	価	償	却	累	計	額	54,000
							(〃)	備	品	減	価	償	却	累	計	額	52,500

建物減価償却累計額：1,800,000 円（整理前 T/B 建物）×90%÷30 年（耐用年数）＝54,000 円

備品減価償却累計額（既存）：200,000 円（整理前 T/B 備品）÷5 年（耐用年数）＝40,000 円

（新規）：250,000 円÷5 年×3 か月（平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月）/12 か月
＝12,500 円

(4) 消耗品の処理

(借)	消	耗	品	1,000	(貸)	消	耗	品	費	1,000
-----	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

消耗品の会計処理は、整理前 T/B に消耗品費勘定が記載されているため、取得時に費用として処理する方法を採用していることに気付く必要がある。そのため、決算においては未使用分を消耗品勘定に振り替える。

(5) 保険料の繰延べ

(借)	前	払	保	険	料	4,000	(貸)	保	険	料	4,000
-----	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	-------

前払保険料：12,000 円×4 か月（平成 28 年 1 月～平成 28 年 4 月）/12 か月＝4,000 円

(6) 利息の見越し

(借)	未	収	利	息	2,000	(貸)	受	取	利	息	2,000
-----	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

未収利息：400,000 円（整理前 T/B 貸付金）×1.2%×5 か月（平成 27 年 8 月～平成 27 年 12 月）/12 か月
＝2,000 円